

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500156		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホーム 心音		
所在地	周南市大字久米3146番地		
自己評価作成日	平成26年3月20日	評価結果市町受理日	平成26年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

離職が多い介護という職業ですが、有り難いことで職員は頑張って入居者さんのお世話をしています。顔馴染みの職員と入居者の方の関係は勿論ですが、職員同士助け合い認知症ケアに取り組んでいます。当ホームは民間が運営する施設ですが、医療連携である高木内科クリニックの高木医師との連携で看取り対応を行っています。診療時間外の急変時にはご家族のご意向に沿って高木医師にご指示を仰ぎ、ご本人の安楽とご家族の安心が提供できるよう日々の生活を支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者ひとり一人の性格や生活歴、現状を把握されたうえで日々のケアを実践しておられます。利用者一人ひとりの家族等との信頼関係を深められており、管理者による毎月の手書きのお便りや面会時や電話の対応、携帯電話のメールによる写真や状況の報告などが行われています。地域との関係もあり、避難訓練時は自治会長や介護相談員、近隣住民が参加され、いざという時の避難場所も確保しておられ、餅つきや敬老会、お出かけ行事など事業所の行事を支援していただくボランティアも6人確保されています。食事は調理の専従職員を確保されて1日3食共に事業所の厨房で調理しておられ、食に対する安全安心、食べる事の楽しみに応えておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念に沿って実践するように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を事業所内に掲示し、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。理念に沿った今年の目標として「入居者さんとしつかり係る」を掲げている他、職員一人ひとりが自分の目標を立て実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の一員として交流している。	自治会に加入し、草取りなど自治会の行事や地域の幼稚園の運動会や発表会に参加し、交流している。外出の援助や餅つきなどの事業所の行事には地域のボランティアの支援があり、利用者とはふれあい、出来たお餅は地域へ配るなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方を招いて、グループホームでの生活等伝えている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価で振り返りを行い改善に努めている。	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解して、職員全員で自己評価を実施しているが、実践状況の具体性が乏しく、評価項目の理解が十分とはいえない。	・項目の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや入居者の状況を報告し、意見や提案をサービスの向上に努めている。	2か月に1回、法人の他グループホームと合同で実施している。警察関係者、地域代表、家族、県議会議員など15名の参加者が有り、多くの意見や提言がでている。意見や提言はサービスの向上に活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や報告を行いより良いサービスが提供できるよう関係を築いている。	運営推進会議時の他、電話や出向いて相談し助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危ないイコール身体拘束するのではなく、その他の安全な対応策を考え対応している。	内部研修で学び」、代表者及び全ての職員は身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように職場環境やスタッフのメンタル面等配慮し環境整備に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者もおられ職員で研修の場を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にサービス提供にあたり理解いただけるよう説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を運営推進会議で報告し意見や提案を運営に反映させサービス向上に努めている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、家族に周知している。運営推進会議時、電話、メールなどで、家族から意見や要望、苦情などを聞いている。玄関に意見や苦情の投函箱を設置している。申し出を促している。苦情は職員間で共有して解決を図ると共に、運営推進会議で報告し意見交換を行っている。職員の言葉づかいについての家族の意見を確認して、反省し、全職員が共有してサービス向上に活かすなど、反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎日ホームにて状況を把握し、職員からの意見や提案に対して適切に判断や改善できるようにしている。	代表者や管理者は月2回の職員会議や日常の業務の中で、職員の意見や提案、質問等を聞いている。出た意見や提案は運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力や実績を把握し、やりがいのあるよう環境、条件の整備をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の実際と力量に応じて法人内外の研修を確保している。	外部研修は職員の段階に応じて参加の機会を提供している。内部研修は月3回実施し、うち1回は薬剤師による勉強会をしている。資格習得についても支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設訪問や食事の機会を設け、お互いがサービス向上できるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安な事に耳を傾け安心していただけるように信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心していただけるように情報や要望をお聞きして適切な支援が行えるように努め関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状必要な支援方法を見極め対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員としてではなく、共に生活する家族として関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携を行い共に支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等で馴染みの人や場所との関係が継続できるように努めている。	家族の協力を得て法事など家の行事に参加したり、お寺や馴染みの寺社の参詣、美容院などへ出かけている。知人の来訪時に一緒に写真をとるなど楽しい時を過ごせるよう支援しており、年賀状や暑中見舞いへの支援を行っている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を把握し、座席等を配慮し孤立せずに係わりあえるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事に参加していただいたり、命日等にお参りさせてもらって関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけご本人の希望に沿うよう会話や行動を通して「やりたいこと」を見つけ日々の生活に取り入れる。ADLの維持に努め相談しながら楽しく生活できるよう努めている。	入居時の基本情報の活用その他、利用者一人ひとりと会話やその日の様子を大切に見守り、思いや暮らし方の希望の把握に努めている。困難な場合は、生活歴や今迄の暮らし方なども参考に、本人本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状態をご家族等からお聞きし情報を皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での小さな変化にも気づけるよう現状を把握し、記録や申し送り等で情報を共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人の変化や異常の把握に努め、スタッフで意見を出し合い対応方法を検討し適切な支援方法を見つけ、ご家族や関係者の理解、協力を得て作成している。	介護計画は、家族や本人の意向を尊重しながら関係者の意見を参考に作成している。月3回のカンファレンスで話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護認定期間に合わせ介護計画を見直している。状況に変化が生じたときは、その都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、気づき等は特記事項とし日報に残す。 申し送りや記録確認で共有し、経過観察や継続の決定を行い見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の言動を常に観察し新たなニーズ発現時には検討して「今何をすべきか」見つけ出し、それに応じた支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報を共有し、行事への参加や買い物、災害訓練等地域資源との協働で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医について話し合い、受診や急変時を含め24時間体制で適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関をかかりつけ医としている。電話相談を含め受診や緊急時の対応など24時間体制の支援があり、他科受診の場合は、かかりつけ医の紹介状により受診しており、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の情報や気づきを報告し確認してもらったり指示を受ける。また受診が必要かを相談し適切な看護を受けられるよう支援している。</p>	/	/
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院による環境変化でのレベル低下を防ぐため細目に病院に出向き、ご本人との関わりの時間を保ち早期退院に向けて関係者との情報交換や相談を行っている。</p>	/	/
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時にご意向を確認し事業所で出来ることをご理解いただき、医療機関と連携しチームで重度化や看取りに取り組んでいる。</p>	<p>契約時に「利用者の重度化(発病)時の対応に関する指針」、「看取りケア(終末期における看取り介護)指針」について家族に説明している。同意書や意向確認書により、早い段階から、本人や家族、かかりつけ医等関係者で話し合いを繰り返し、共有して支援に取り組んでいる。</p>	
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <p>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>夜間の見回りを細目に行い、一人ひとりに応じた対応を行っている。急変時や事故発生に備えて普段から訓練を行い実践力を身につけるよう努めている。</p>	<p>ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録し、検証して、事故防止に取り組んでいる。緊急時の対応や応急処置について実践力を身につけるための研修や知識の確認のためのテストなども行い、リビングには「緊急時対応ファイル」を備え、夜勤や気になる時など、随時確認をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応として夜間発生の想定で訓練を行い、消防や地域との協力体制を築いているが今後更なる訓練や協力を求めていく必要がある。	年二回、夜間を想定した避難訓練を利用者や自治会長・介護相談員・近隣住民などが参加して実施している。避難場所も確保しており、川の氾濫に備えた対応の想定など、消防や地域との協力関係を築きながら備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して言葉かけを行っているが、受け取る側がどのように感じるかを考えて声かけする必要がある。	職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、利用者の誇りを傷つけない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるように工夫し促しているが、まだまだ職員本位な場面もある。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った生活を提供できるように努めているが、業務が優先して職員本位になる場合がある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや化粧等でその人らしいおしゃれが出来るように努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内で調理をする為準備の段階から食事に対する楽しみを持ち、力量に応じて下膳等行っている。	三食とも事業所で調理し、利用者は食材の下ごしらえや準備、下膳、テーブル拭きなどを職員と一緒にしている。ファミリーレストランでの喫茶やゼリーなどのおやつづくりをしているなど、食が楽しみなものになるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し個人に応じた支援を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録や様子から誘導を行いトイレで排泄できるよう努めている。	ひとり一人の排泄パターンを把握し、表情やしぐさなど排泄に伴う小さなシグナルもさりげなく察知し、利用者に合わせた工夫をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個人に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し水分や海藻類の摂取で排便を促し、服薬が必要な方は最小限の服薬に出来るようコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個人に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに適切な入浴方法で安全性を考慮し、希望やタイミングを合わせ力量に応じた洗身洗髪の支援を行っている。	入浴時間は午前10時から11時30分までの間で、必要に応じて補助具等を使用して、安全に入浴を楽しめるようにしている。入浴しない時は足浴や部分浴で対応し、入浴をたく利用するには、無理強いせずタイミングを見計らったり、職員を交代して声かけするなどの配慮をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態に応じて休息の確保を行い、寝具の清潔により気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方日には服薬管理票の記入を行い服薬内容や副作用等についての理解をしている。与薬時の確認を徹底させ誤薬のないように努めている。月に一度の薬剤師による勉強会で薬剤についての理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力量に応じてキーボードやカラオケ、トランプ等他者と楽しめる時間や園芸等で楽しみや気分転換できるよう支援している。	時代劇のテレビ番組の視聴、ぬり絵、切り絵、ちぎり絵、はり絵で壁飾りづくり、折り紙、雑誌を裂いてごみを包む紙にする、カラオケ、童謡や唱歌を歌う、キーボード、簡単な記録をつける、花植え、水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、食器を拭く、おしぼりをまく、外での足湯など、利用者一人ひとりに合わせた場面づくりをして、楽しみごとや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩や屋外の足湯に出向いたり季節や地域の行事、幼稚園の発表会等に出かける。ご家族の協力でお墓参りに出かける。	散歩や買い物、ドライブなど出かける機会を作っており、必要に応じてボランティアの支援も得ながら地域や幼稚園の行事に出かけ、家族の協力によりお墓参りなどに出かけている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族のご意向を確認し所持される方は居られるが、ほとんどの方は所持されていない。力量に応じて買い物で支払う場合事業所のお金で支払をする。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りを書いたり、電話による支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間が混乱を招かないように配慮し、空調の調整を細目に行い居心地良く過ごせるよう配慮している。	木のテーブルの下に電気マットが敷いてあり、椅子に座りながら温かく過ごせる。大きなソファ、大型テレビ、長椅子と長テーブルが少し離れたところに配置してある。壁には小学生から届いた手紙が掲示してあったり、乳幼児と触れ合った時の写真や季節感のある利用者がつくった壁飾りが貼ってある。季節に応じた節句の人形が飾っており、南側の縁側にはプランターが置いてあり、花や野菜を植えている。台所から食事の支度の音や匂いがして、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい時間や気の合う仲間と過ごせるように座席の配置等を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた馴染みの家具類を搬入していただき環境の変化を最小限に抑えられるようにしている。	居室は洗面台と収納を整備し、窓には障子のはめられるなど、使い勝手の良さや家庭的な雰囲気を感じることができる。利用者は布団、椅子、収納ケース、ダンス、カーペット、座卓、こたつ、小型の鏡台、ヘアブラシ、人形など思い思いの物を持ち込み、壁には自分で色を塗ったカレンダーや家族や本人の写真などが飾ってあり、安心して居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること・わかること」を活かして混乱を招かない安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 心音

作成日: 平成 25年 10月 20日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	一人ひとりの状態に応じて日々の対応を行い事故防止に取り組んでいるも転倒されるという事故が発生している。	転倒のない安全な生活を提供する。	個々人の身体状況に応じて生活の中で下肢筋力の維持ができるように支援する。下肢の浮腫を改善する為に、臥床する時間や足湯、マッサージを継続して行う。常に環境整備を行う。	5か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。